

## 平成 30 年 2 月の市民の声（全 6 通のうち 6 通）

市民の声の内容と、そのお返事の一部を紹介します。

### ◇トイレの洋式化について

#### 【ご意見・ご提案など】

大和公民館のトイレを洋式にしていきたい。

（平成 30 年 2 月 1 日）

#### 【お返事】

大和公民館のトイレは 1 階と 2 階にありますが、洋式便器は 1 階の女子用トイレに 1 か所あります。洋式を希望する場合は、お手数ですがこちらをご利用ください。

和式は膝に負担が大きいこと、家庭でも洋式化が進んでいることなどを理由として、学校や公共施設に洋式便器の設置要望が寄せられています。

財政的な問題もありますので、市では徐々に洋式化を進めることとし、利用者数や要望の多い場所から改修工事を始めています。大和公民館でも、洋式便器を増やす方向で検討を進めたいと考えております。

（担当：社会教育課）

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

## ◇職員 of 素行について

### 【ご意見・ご提案など】

先日、国道のコンビニ近くのゴミステーションで除雪をしている人がいました。車を片側車線をふさぐようにして止め、雪を車の後方に投げていました。朝の通勤の時間帯でもあり、一歩間違えれば事故を誘発する可能性もあり、あまりにも非常識な行動であった為、知人数人に聞いた所、それは市の職員である事が判明しました。車のナンバーも確認したので、間違いのないと思います。聞いたところによると、その職員は非常に素行が悪いと聞き及びました。

その様な自分さえ良ければ、という考えの市の職員を見過ごす訳にもいかずペンを取った次第です。

昨今は小野塚彩那さん、並びに田中友理恵さんの様なオリンピック選手を輩出している市としても注目されている中でこの様な事があってはいけないと思います。

市の職員は身内に甘い、と言うのは重々承知しておりますが、市民の声として真摯に受け取ってもらいたいと思います。よろしくお願いします。

(平成 30 年 2 月 7 日)

### 【お返事】

ご意見をいただきました職員によるゴミステーションの除雪について、該当職員に対して事情聴取を行いました。降雪によりゴミステーションの扉が開かず、スコップを使いステーション前を除雪したとのことでした。除雪の際には、通行車両に注意するよう指導しました。

(担当：総務課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

## ◇道路の排水について

### 【ご意見・ご提案など】

いつも南魚沼の為に尽力していただきありがとうございます。ご意見をありがとうございます。

今回は、雪の排雪の仕組みがどうにかならないものかと思いい、連絡しました。交差点のところに、大抵排水溝があると思うのですが、多くの場所でそこに水を含んだ雪が詰まり、上手く排雪・排水できずに水溜りになっています。

車が通ると歩行者へかかり、歩行者は靴を濡らすし、歩きにくいです。不便・不快に感じている方が多くいるのではないのでしょうか？

こういうことが起こらない排雪の仕組みは無いのでしょうか。南魚沼がそのような仕組みを提唱できれば面白い取り組みだなと思いました。

(平成 30 年 2 月 14 日)

### 【お返事】

市街地をはじめ住宅沿いのほとんど道路や交差点には、路面の雨水や雪解け水の排水路として道路側溝が設けられています。住宅地では側溝にコンクリート蓋や金属製グレーチングが設置されていますが、流雪溝と違って断面積も小さいため、雪を流す構造になっていません。

そのため、ご指摘のとおり消雪パイプ路線等では路肩に雪が残り、パイプから散水された水が側溝に吐けにくくなって水溜まりとなり、車が水を跳ね上げ歩行者にかかることが多く見受けられます。

このような事象を解決する仕組みを作ることができれば、雪国の生活もかなり改善されるものと思われます。しかしながら、気象条件により水溜りの状態が異なるため、その時々状況に対応できる解決策は、現在ありません。

十日町市の新座地区など、ドライバーへの雪水跳ね注意喚起看板を設置しているところもあります。当市も、ドライバーへの注意喚起を含めて、良い解決策を研究していきたいと

考えます。

なお、消雪パイプ路線であっても道路幅が狭くなって車のすれ違いが困難な場合には、除雪機械を入れて拡幅除雪を行う場合があります。お困りの際は、下記の担当課にお申し付けください。

(担当：建設課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

## ◇ごみ収集・裸押合い・C C R Cについて

### 【ご意見・ご提案など】

- ① 夏期も冬期もゴミ収集曜日、回数が同じですが、もえるゴミに限り収集回数を冬期は減らしても支障がないのでは？冬期は臭うことも余りなく量的にも減るのでは？収集回数を減らすことは経費節約につながると思います。
- ② 3月3日の浦佐裸まつりの時、観光バスを見た事はありません。祭りと近隣の湯（温泉）をセットでツアーを組めばセット商品となるのでは？関東、関西圏の旅行会社への売り込み努力はされてるのか、元気な高齢者の多い今、商工会まかせではなく市の指導と介入があればもっと積極的地域振興となるのではないかと考えます。
- ③ 生まれはこの地域ですが東京に40年以上居ました。生まれた所だからこそきびしい雪国生活が出来ますが興味だけでは2～3回の冬を経験すればギブアップしてしまうのではないかと 생각합니다。  
C C R Cに関連する私見です。

(平成30年2月16日)

### 【お返事】

#### ① について

大和地域の可燃ごみの収集は、月・水・金曜日の週3回です。収集量は、水曜日と金曜日がほぼ同量で、月曜日はその1.5倍です。休み明けにごみ量が増える傾向があります。1か月の収集量は8月が最も多く、2月と6月が少なく他の月は平均しています。2月は多少減るものの、冬季に特にごみの量が減少するといった傾向はみられません。

可燃ごみの収集作業は、市の委託業者が車両3台で行っています。1台に積載できるごみの量には限度があり、収集日を少なくした場合はその分が他の収集日に上乘せされることから、過剰積載が心配されるところです。週3回に分散して収集することで、こうした問題が起きないようにしています。

また、ごみを毎回出す人もいれば、何日分かまとめて出す人もいます。週に2回よりも3回の方が、市民の利便性にも

つながると考えています。ごみの排出量は、今後、人口減少に伴い減少してゆくと考えられます。こうした状況をみながら、将来的に収集日や収集回数を検討しながら、経費節減に努めたいと考えています。

## ②について

南魚沼市観光協会では、市の支援により昨年6月に第2種旅行業を取得し、着地型の旅行商品の企画・造成、宣伝、販売をするようになりました。市内の観光地や宿泊所のみを扱った旅行商品や、市内と近隣市町の観光地や宿泊所を組み合わせたものなどがあります。裸押し合い大祭についても、3月3日から4日まで「裸押合大祭と雪晒しをめぐる旅」と題し、市内の温泉宿に泊まり、裸押合大祭や雪さらしなどを見学するツアーが実施されます。少しずつではありますが、関東方面の顧客に利用され始めています。

また、県内や県外で開催される商談会や、海外の旅行博にも積極的に参加し、旅行商品の宣伝や売り込み、市内観光資源のPRに努めており、徐々にではありますが、成果を上げはじめております。

なお、浦佐地域には新幹線駅があることから、鉄道交通の利用が進んでおります。そのため、グルメマラソンや山岳マラソンを含め浦佐地域のイベントには、新幹線を利用される方が多いようです。

## ③について

移住の状況としては、雪国の生活を知らずに突然移住してくるのではなく、スキーや観光で当市を訪れ、長期間にわたり繰り返し冬の状況を観察した後に移住していただく方が多いと感じています。生活の大変さはありますが、「雪が多い＝四季がはっきりして景色がきれい」ということで移住を決めたという声を多くお聞きします。

しかし、心配されるように突然移住して、雪国での生活を送るとすれば2～3回の冬を経験すればギブアップしてしまうことも十分にあり得ると考えています。

そこで、市では移住前に南魚沼市の生活を体験していただ

く「体験住宅」や移住希望者に対する「地元交流会」等により、事前に雪国での生活を体験していただいたうえで移住を検討していただくような取り組みを行っております。今後も雪国での生活を送るうえでの問題点等を事前に説明・体験し、納得したうえで移住していただく取り組みを継続していきます。

また、移住者にとっては、ご近所との付き合い方にも不安があると聞いています。移住後にコミュニケーション不足や風習の相違等による問題が起きないことはもちろんですが、移住者に対するアドバイスをご近所の方からしていただけるような良好な関係づくりが必要です。地域団体や行政区と連携し、移住者の不安を取り除く取り組みも行っていきたいと考えております。

(担当：①廃棄物対策課・②商工観光課・③U&Iときめき課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

## ◇新入生の個人情報について

### 【ご意見・ご提案など】

上の子供が現在小学3年生で、入学する前あたりから地域にある塾からの勧誘のチラシが新聞の折り込みでもなく郵便でもなく直接ポストに届くようになりました。

「どこで新入学生の個人情報を調べたのでしょうか？」

小学校では個人情報の取り扱いが厳しく友達の住所ですら簡単に調べられません。今年、下の子供が小学生に入学します。案の定またチラシが届きました。

「どこかで小学生もしくは新入学生の住所を取得してるはずですよ！」

犯罪につながる恐れもあるので営利目的で個人情報を取得または売買？を止めるよう市の方からも通告お願いします。自分は度々チラシがくるので匿名でその塾に「チラシの配布を止める旨」の電話を2年前位にしたのですが、下の子供の入学に合わせて本日チラシがまた届きました。

(平成30年2月20日)

### 【お返事】


新入学児童の個人情報については、市内の全保育園、幼稚園、認定こども園で教育委員会（各学校）と同様の取り扱いを行っています。各園では緊急連絡先などを作成していますが、保護者には配布せず、事務室に掲示する以外は緊急時用のバッグに保管するだけとなっています。

また、保育園等に勤務するもの（臨時職員を含む）は地方公務員としての守秘義務があり、全ての職員がこれを遵守しております。近年は不審者等の発生もあり、特に守秘義務（業務上知り得た情報）の徹底を図っています。保育園等から特定の事業者等に個人情報を提供することは絶対にありませんので、ご安心ください。

今後も、個人情報の取扱いには細心の注意を払って子育て支援施策に取り組んでまいりますので、ご理解をお願いいたします。

(担当：子育て支援課)



問合せ：秘書広報課  773-6658

## ◇まちづくりについて

### 【ご意見・ご提案など】

対外的宣伝よりも、まずは既にいる住民への取り組みに多くの予算を充てるべきでは？

いくら外見が良くても、中身が伴わなければそれは「魅力がある」とは到底言えないと考えます。

今住む人が魅力を感じ、「とっても良い場所！是非おいで！」と胸を張って言える市にしてほしい！

若者が帰ってきたい！と思える街に、1億円を超える HALF パイプなんて要りますか？何千万もするトレーニング施設、スケートパークなんて要りますか？何百万も掛けて雪を保存し、さらにお金を掛けて都会に雪を持っていく意味はなんですか？

冬に足を運んでもらえばいいじゃないですか？そこでおにぎりや日本酒を振る舞い、温泉に入ってもらえばいいじゃないですか？

そのお金を子育て支援、義務教育料の補填、買い物困難者へのバス増便などに充てられませんか？この税金を納めるために市民がどれ程働いているか考えてください。1円でも安い商品を買うためにチラシとにらめっこする時間があることを忘れないでください。

住む人がいて、初めて市政は成り立つのではないのでしょうか？私はこれから夫婦でずっと南魚沼市で生きていきます。お互い両親もいます。子どもも産まれます。

皆様を信頼して、票を投じています。どうか、よろしくお願ひします。

(平成 30 年 2 月 21 日)

### 【お返事】

「対外的宣伝よりも、まずは既にいる住民への取り組みに多くの予算を充てるべきでは？」とのご意見は、市民共通の考えだと思えます。どのようなまちづくりをしていくのかは、首長を先頭に、市議会や市民が一緒になって考えていかなければなりません。

ご意見にあったハーフパイプやトレーニングセンター、スケートパークなどの整備は、対外的な宣伝ではなく、まさに市民、特に子どもたちの利用を視野に入れて整備したものです。「この地域から世界で活躍する競技者を育成したい」「若い頃からスポーツに親しむ習慣を作り、住民の健康増進を進めたい」と考えたものです。施設の設置にあたっては、県などからの補助金を活用し、維持・管理費もネーミングライツ（命名権）を募るなどして経費を抑える努力をしています。

また、これらの施設整備は未来への投資でもあります。ハーフパイプやトレーニングセンターは、オールアルビレックス・スポーツクラブと連携したスノーボードアカデミーの皆さんが利用しています。いわゆる「スノボ留学」が始まっています。今後、これを子育て世代の移住につながる取組に発展させたいと考えています。

当市の人口は約5万8千人ですが、2040年には4万8千人になるものと推計しています。2040年には、子どもの人数は4割減少し、働ける人の数も3割減少します。これは当市に限った問題ではなく、全国的な問題です。いわゆる人口減少問題と呼ばれるものです。

人口減少問題は、単に人口が減るばかりではなく、高齢化とセットで進行しています。このままでは地域経済の縮小を生み、店舗の廃業、撤退など住民にとって不利益が生じる恐れがあるほか、担い手不足による地域の活力低下も進むものと思われまます。

人口減少問題の原因は、自然減と社会減にあります。自然減をくい止めるには、生まれてくる子供を増やすこと、そして健康寿命を延ばすことの2点、社会減を食い止めるには、働く場所の確保や住みやすい環境の整備などによる流出人口を抑えること、そして当市の魅力を増進して流入人口を増やすことの2点が重要です。

そのために、ご意見にあったような施設整備のほか、大型ショッピングセンター内に子育て応援施設を設置するなどの子育て対策や、基幹病院をはじめとしたインフラ整備を行い、住みやすい環境づくりに取り組んでいます。これらのハード事業に加え、子どもの医療費助成や、妊産婦の医療費助成な

どにも先進的に取り組んでいます。これらは市外にも宣伝していますが、本来の目的は市民の住みやすい環境を整えるためです。

雪を保存し、冬期間以外に活用しようとする取組も、その延長線上にあります。当市では、雪は産業や生活と深く結びつき、切り離しては考えられない存在です。雪の利活用は冬のレジャーや観光ばかりではなく、当市の魅力として、その利雪克雪の歴史・文化・産業とともに全国に発信してよいものと考えています。また、そのことで当市を訪れる人が増え、雪の利活用によるビジネスなどが発生すれば、投資効果は十分あり、最終的には市民の利益になるものと考えています。

これらは、前述の「スノボ留学」などにも同じことが言えます。交流人口が増加すれば、そこにビジネスが生まれ、雇用が発生します。働く場所が増えれば、人口も増加します。

ご紹介した施策は、そのような好循環を生み出すための取組であることをご理解ください。これからの人口減少社会の中で、地域間競争はますます激化します。将来展望を掲げて今からそれを実行した地方自治体のみが、将来的に生き残れるものと考えています。

「住む人がいて、初めて市政は成り立つのではないのでしょうか？」とのご意見もいただきました。その通りです。市民の暮らしを守り、安心して子どもを産み育てられる、住む人が幸せを感じられるようなバランスのとれたまちづくりをこれからも進めてまいります。

(担当：企画政策課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658